

[明治美術学会 会員業績録 2000年4月1日～2005年3月31日]

明治美術学会 会員業績録

(2000年4月1日～2005年3月31日)

この夏、会員に対し、2000年4月1日～2005年3月31日の間に発表された主要論文の報告（3点以内）を依頼した。以下がそのリストである。なお、上記期間の枠を越えた論文と修士論文、口頭発表業績は掲載していない。誤植の責は作業にあたった丹尾に帰せられる。

名前	共著者	論文名/書名	掲載誌/掲載書	発行	巻号	刊行年月
赤木美日(筆名三木順子)		子どもの美術教室での卵黄テンペラの板絵作り	『美術教育研究』	東京芸術大学美術教育研究会	9号	2004年5月
荒井経		岩絵具—近代色料のローカルスタンダード	『美術手帖』	美術出版社		2005年5月
荒屋鋪透		芸術家村グレー＝シュル＝ロワン—その前史、地誌、および日本との関係について	『グレー村の画家たち』(展覧会図録)			2000年10月
荒屋鋪透		画家・中村不折再考—フランス最後の歴史画家ジャン＝ポール・ローランスとの交流をめぐって	『中村不折秀作集』	新葉社		2002年3月
荒屋鋪透		画家フォンタネージと芸術家村クレミュー—19世紀イタリア風景画における伝統と象徴	『伝統と象徴 美術史のマトリックス』	沖積社		2003年5月
有田巧		長谷川路可のフレスコ画<1>	『早稲田大学会津八一記念博物館紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	4号	2003年3月
有田巧		長谷川路可のフレスコ画<2>	『早稲田大学会津八一記念博物館紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	5号	2004年3月
李仲熙		朝鮮前半期 江湖山水画の風靡とその背景、—朝鮮前半期 詩的 山水画風の流行에 대하여—	『韓国詩歌研究』	韓国詩歌学会	12輯	2002年8月
李仲熙		『韓中日の初期西洋画導入 比較論』		한국역과일		2003年2月
李仲熙		朝鮮後期 風俗画의 発生과 近代性	『韓国近代美術史学』	韓国近代美術史学会	13輯	2004年12月
石井元章		Venezia e il Giappone—studi sugli scambi culturali nella seconda metà dell'Ottocento		Istituto Nazionale di Archeologia e Storia dell'arte		2004年2月
石井元章		明治初期トリノの日本人留学生	『イタリア学会誌』	イタリア学会	53号	2003年10月
石井元章		エンリーコ・ヒラー・ジリオーリと日本	『イタリア学会誌』	イタリア学会	54号	2004年10月
伊豆井秀一		パブリックアート試論	『アートマネジメント研究』	美術出版社	3号	2002年11月
伊豆井秀一	榎原弘二郎・三澤一美・山田一文・田中晃	『ミュージアム・コラボレーション』の意義と課題	『埼玉大学紀要 教育学部(教育科学)』	埼玉大学教育学部	52巻2号	2003年4月
稲賀繁美		Un destin de pensée : L'impact d'Okakura Kakuzo sur le développement de l'histoire de l'art en Inde et au Japon au début du XX ^e siècle.	Livia Monnet (éd.), <i>Approches critiques de la pensée japonaise du X^X e siècle.</i>	Les Presses de l'Université de Montréal		2001年
稲賀繁美		Claude Monet, Between Impressionism and Japonism	<i>Monet and Japan</i>	Australian National Museum		2001年
稲賀繁美		編：特集号「近代東アジアの美術史学、建築史学、考古学の成立」	『日本研究』(国際日本文化研究センター紀要)	角川書店	26号	2002年12月
今橋映子		『<パリ写真>の世紀』		白水社		2003年6月
今橋映子		『展覧会カタログの愉しみ』(編著)		東京大学出版会		2003年6月
今橋映子	『バンテオン会雑誌』研究会	『パリ一九〇〇年・日本人留学生の交遊』 『バンテオン会雑誌』資料と研究』		ブリュック		2004年9月
岩切信一郎		尾形月耕—明治10年代から20年代の活動を中心に—	『浮世絵芸術』	国際浮世絵学会	144号	2002年7月
岩切信一郎		近代口絵論—明治期木版口絵の成立—	『東京文化短期大学紀要』	東京文化短期大学	20号	2003年3月
岩切信一郎		昭和新作版画の諸相—1930年代の伝統木版画	『日本の版画Ⅳ 1931～1940』(展覧会図録)	千葉市美術館		2004年8月
岩間真知子		帝展改組と京都画壇—橋本関雪に宛てた大観・玉堂らの書簡から	『近代画説』	明治美術学会	12号	2003年12月
植田彩芳子		横山大観筆《屈原》(巖島神社)についての考察	『美術史論叢』	東京大学文学部美術史研究室	21号	2005年3月
植野健造		近代の洋画 (第五章)	『柳川文化資料集成 第三集 柳川の美術Ⅰ』	柳川市		2005年2月

植野健造		名作ものがたり：青木繁《海の幸》の100年	『美術研究作品資料 第3冊 青木繁《海の幸》』	東京文化財研究所		2005年3月
植野健造		二科会—久留米の画家たちから—	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
歌野眞介		『油絵を解剖する—修復から見た日本洋画史—』		NHKブックス		2002年1月
歌野眞介	坂本一道、佐藤一郎	『明治後期油絵基礎資料集—東京芸術大学収蔵作品—』		中央公論美術出版		2004年9月
江川佳秀		靉光と太平洋画研究所	『太平洋美術会百年史』	太平洋美術会		2004年4月
江川佳秀		川端画学校沿革	『近代画説』	明治美術学会	13号	2004年12月
江川佳秀		二科会とサロン・ドートンヌ	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
及川茂		Edo Ukiyo-e Prints in European Artists' works	DARUMA	DAUMA Publishing	41号	2004年 春
及川茂		Meiji Shunga: The Comic Genius of Kawanabe Kyosai	Amy Newland (ed.) Japanese erotic fantasies	Hotei publishing		2005年1月
及川茂		フェリックス・レガメー著『おこま』と曲亭馬琴作『美濃舊衣八丈綺談』	『日本女子大学大学院人間社会研究科紀要』	日本女子大学	11号	2005年3月
大下智一		『ミュージアム新書24 山下りん』		北海道新聞社		2004年3月
大谷省吾		北脇昇の「図式」絵画について	『東京国立近代美術館紀要』	東京国立近代美術館	7号	2002年5月
大谷省吾		地平線の夢 序論	『地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画』(展覧会図録)	東京国立近代美術館		2003年6月
大谷省吾		シュルレアリスムと俳諧—表現の近代>はいかに問い直されたか—	『クラシックモダン 1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
大坪潤子		<南部利祥像>に見る銅像の成り立ち	『歴史民俗資料学研究』	神奈川大学歴史民俗資料学研究科	7号	2002年3月
大坪潤子		銅像の建つ場についての考察	『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』	神奈川大学21世紀COEプログラム	2号	2004年12月
大坪潤子		高橋是清関連資料をめぐって—テーマ展「高橋是清—ダルマ宰相と港区」展示資料より	『研究紀要』	港区立港郷土資料館	8号	2005年3月
岡戸敏幸		『影』になること—越境する身体	『日本の美学』	燈影舎	35号	2002年12月
岡戸敏幸		正岡子規の画譜鑑賞	『鹿島美術研究年報』	鹿島美術財団	20号別冊	2003年11月
隠岐由紀子		ギター・ヴ・モローと仏教美術	『ジャポニスム研究』	ジャポニスム学会	20号	2000年9月
隠岐由紀子		19世紀のパリで催された二つの日本画家新作展	『日仏美術学会会報』	日仏美術学会	22号	2003年9月
隠岐由紀子		創られる美術史…「世紀の祭典 万国博覧会の美術」展を見て	『ジャポニスム研究』	ジャポニスム学会	24号	2004年11月
五十殿利治		『日本のアヴァンギャルド芸術—マヴォ>とその時代』		青土社		2002年8月
五十殿利治		コマ絵投書と新興美術運動—『文章世界』投稿画を中心に—	『日本文学』		51巻11号	2002年11月
五十殿利治	河田明久	『クラシックモダン—1930年代日本の芸術』		せりか書房		2004年12月
甲斐繁人		『邯鄲夢枕』十三章「名島行」の二四図に描かれた丸山定夫像に関するノート(其の1)	『ねじ釘』(柳瀬正夢研究誌)	柳瀬正夢研究会	2号	2003年2月
甲斐繁人		柳瀬正夢「無産者新聞」時代の調査の現状と課題	『ねじ釘』(柳瀬正夢研究誌)	柳瀬正夢研究会	3号	2004年1月
甲斐繁人		『邯鄲夢枕』表紙装画の図像を読む	『絵画修復報告』		6号	2004年3月
鍵岡正謹		合戦図—絵金をめぐって	『大正ロマン』		24号	2004年8月
鍵岡正謹		界雲の美人画	『山本昇雲展』図録	高知県立美術館		2005年2月
鍵岡正謹		応挙と若冲、蕪村の淀川	『国文学』		50巻3号	2005年3月
勝山滋		画題の変遷—安田靉彦の歴史画をめぐって—	『日本画の巨匠安田靉彦—歴史画の魅力展』(展覧会図録)	平塚市美術館		2002年2月
勝山滋		今村紫紅「入る日・出る月(画稿)」とその周辺	『(財)横山大観記念館 館報』	(財)横山大観記念館	20号	2004年7月
金井忠夫		高橋由一 石版画下絵とその制作課程について	『那須野が原博物館紀要』	那須野が原博物館	創刊号	2005年3月

金子一夫		小山正太郎資料(三) 遊峽録舛稿	『五浦論叢』	茨城大学五浦美術文化研究所	10号	2003年10月
金子一夫		美術の方法論の理解を目的とする鑑賞教育(7)	『茨城大学教育学部紀要(人文・社会科学、芸術)』		53号	2004年3月
金子一夫		明治後期中学校における図画教科書の採用分布について	『美術教育学』		25号	2004年3月
金子隆一		新興写真研究会についての試論	『東京都写真美術館紀要』	東京都写真美術館	3号	2003年3月
金子隆一		The origins and Development of Japanese Art Photography	The History of Japanese Photography	Yale University		2003年3月
金子隆一	大迫正弘	1894年の東京地震の写真資料	『東京国立科学博物館紀要』	東京国立科学博物館		2004年12月
亀井志乃		フェノロサと「浮世絵史考」	『近代画説』	明治美術学会	9号	2000年12月
亀井志乃		<写真>と日本の近代—下岡蓮杖を中心に—	『アジア文化研究』	木浦大学アジア文化研究所(韓国)	5輯	2001年2月
亀井志乃		<学習院>の青年たち—『白樺』前史・武者小路実篤を中心に—	『文学』	岩波書店	3巻6号	2002年11月
河上眞理		プロスペロ・フェッレットティ研究—インド、日本、そしてイタリア	『近代画説』	明治美術学会	10号	2001年12月
河上眞理		ジョヴァンニ・ヴィンチェツォ・カッペレットティと19世紀後半のイタリア建築	『地中海学研究』	地中海学会	26号	2003年5月
河上眞理		工部美術学校設立事情考	『美術史』	美術史学会	155号	2003年10月
川島一穂		ヤスオ・クニヨシの時代と芸術—「戦争画」を中心に—	『大阪芸術大学短期大学部紀要』	大阪芸術大学短期大学部	25号	2001年3月
川島一穂		天心岡倉覚三の思想形成—福井人としての岡倉と橋本左内—	『LOTUS』	日本フェノロサ学会	23号	2003年3月
川島一穂		近代日本とボストン—天心岡倉覚三を中心に—	『大阪芸術大学短期大学部紀要』	大阪芸術大学短期大学部	29号	2005年3月
河田明久		「まるいかたち」とその背景—昭和前期前衛絵画の一側面	『美学』	美学会	207号	2001年12月
河田明久		日本人の肉体と「正しい身体」	『現代思想』	青土社	30巻9号	2002年7月
河田明久	五十殿利治	『クラシックモダン—一九三〇年代日本の芸術』		せりか書房		2004年12月
金恵信	池田忍	植民地期「朝鮮」と帝国「日本」の女性像	『拡大するモダニティ』(岩波講座 近代日本の文化史 第6巻)	岩波書店		2002年
金恵信		『韓国近代美術研究—植民地期「朝鮮美術展覧会」にみる異文化支配と文化表象』		ブリュッケ		2005年1月
金原宏行		『幕末から明治へのめまぐるしい美術』		沖積社		2003年11月
金原宏行		『近代日本美術の伏流』		沖積社		2004年11月
金原宏行		朝鮮通信使の眼と日本人絵師の眼	『常葉学園大学教育学部紀要』		25号	2005年3月
沓沢耕介		小倉惣次郎と大隈重信肖像	『早稲田大学会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	4号	2003年3月
沓沢耕介		池野哲仙ノート	『人形玩具研究—かたち・あそび—』	日本人形玩具学会	14号	2003年9月
沓沢耕介		紀淑雄の美術家養成活動	『早稲田大学会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	5号	2004年3月
久保いく子		山下りん筆「聖母子とヨハネ」の原画について	『日本美術研究』	筑波大学芸術系日本美術史研究室	1号	2001年9月
久保いく子		ラファエロのフィレンツェ時代の聖母子画における幼児洗礼者ヨハネの扱いについて	『芸術学研究』	筑波大学大学院博士課程芸術研究科・人間総合科学研究科	7号	2003年3月
久保いく子		矢代幸雄とアメリカ巡回日本古美術展覧会(一九五三年)	『近代画説』	明治美術学会	12号	2003年12月
桑原規子		恩地孝四郎の「楽曲による抒情」シリーズをめぐって—1930年代の日本の抽象絵画に関する一考察	『美学』	美学会	215号	2003年12月
桑原規子		1930年代創作版画の危機—伝統版画との対立のなかで	『クラシックモダン—1930年代日本の芸術』(五十殿利治・河田明久編)	せりか書房		2004年12月
桑原規子		竹久夢二と大正期の洋画家たち—光風会・フェウザン会・二科会の周辺—	『大正期美術展覧会の研究』	東京文化財研究所		2005年3月
向後恵理子		通信省発行日露戦役記念絵葉書—その実相と意義—	『美術史研究』	早稲田大学美術史学会	41冊	2003年12月